

ニュースの内容による言語的相違

轟 里香*

Linguistic Phenomena in Different Parts of TV News Programs

Rika Todoroki*

Received November 30, 2011

Abstract

There have been some profound changes in the language used in the visual media in Japan, especially in TV news programs. This paper shows that those linguistic phenomena can be related to the fact that a lot of TV news programs have been changed to be similar to entertainment programs in recent years. Additionally, by comparing different news items of one news program, I show that there are some parts where the linguistic phenomena appear more often than other parts of the news program. Also, I examine one linguistic phenomenon which seems to appear in only one part of the news program.

1. 導入

本論文は、いわゆるニュース番組¹⁾で用いられている言語において顕著な現象について考察する。

轟 (2007)は、近年のニュース番組の言語に見られる現象として①体言止めあるいは助詞の省略²⁾(以降、体言止め・助詞の省略と表記する)、②動詞的要素の省略、③要点の後置・省略を取り上げ、例を挙げて指摘した。これらに加え、轟.(2008,2009)は、近年のニュース番組で用いられる言語において特徴的な他の現象を指摘した。

このような現象は、すべてのニュース番組で同じように見られるわけではない。轟 (2010) が示すように、ニュース番組が異なると、使われている言語の特徴が異なる。轟 (2010) は異なるニュース番組間の比較を通して、番組の相違が言語に与える影響について考察した。

以上のようにこれまでに明らかにしたことに基づき、本論文では、ニュース番組の中で使われる言語に、番組の部分によって特徴があるかどうかを考察する。一つのニュース番組の中でも、使われている言語は一様ではない。番組の部分によって使われる言語に特徴が見られる。本論文は、様々な例の観察を通して、番組のある部分に特徴的な言語現象を示す。また、この現象をニュース番組の娯楽化と関連付ける。

本論文の構成としては、まず 2 節で、轟 (2007,2008,2009,2010)の議論を踏まえ、近年ニュース番組において顕著に見られる現象を指摘する。3 節では、ニュース番組といわゆるバラエティ番組で用いられている言語の比較を行い、ニュース番組で用いられている言語が娯楽番組の言語と非常に類似していることを見る。また、ニュース番組の中でも、特に使用言語に娯楽番組と類似した特徴があるのはスポーツに関連したニュースであることを指摘する。4 節では、主にスポーツに関連したニュースに生じている言語現象を取り上げて分析する。5 節では、本論文の議論のまとめを行う。

* 教育能力開発センター

Center of Development for Education

2. ニュースにおいて顕著な言語現象

2.1 体言止め・助詞の省略

ニュースにおいて急速に増加した言語現象として、まず、(1)のような体言止め・助詞の省略が挙げられる。

- (1) 民主党の鳩山代表、第93代内閣総理大臣に。

(「ニュース7」NHK、2009年9月16日放送)³⁾

(1)は一見すると新聞記事の見出しのように見えるが、テレビのニュース番組の中で使われた表現である。このように、報道関係では従来新聞記事の見出しなどで用いられてきた体言止め・助詞の省略が、ニュース番組の中で音声言語として頻出するようになってきている。(2)(3)も同様に、体言止め・助詞の省略を含む例である。

- (2) きょう午後4時20分ごろ、突然倒れた解体中の観覧車。

(「ニュースウォッチ9」NHK、2011年7月7日放送)

- (3) 野田総理大臣がきょう記者会見で交渉参加を表明する方針だったTPP。

(「ニュース7」NHK、2011年11月10日午後7時放送)

- (4) 今日の初会合、まず事務局が報告したのは、福島第一原発の事故についてでした。

(「ニュース7」NHK、2011年11月29日午後7時放送)

現在、ほとんどのニュース番組で、体言止め・助詞の省略が毎回必ず出現し、しかも、出現数が非常に多いという状況になっている。

このような体言止め・助詞の省略が、指示詞「この」「その」と併用されることも多い。次の例を見てみよう。

- (5) この0金利政策。日銀は、いったん解除した7ヶ月間を除き平成18年7月までおよそ7年続けました。

(「ニュース7」NHK、2010年10月5日放送)

- (6) 次に、オリンパスの損失隠しです。損失の穴埋めのために行った企業買収について、おとし、監査法人が、買収額が適切ではないと指摘したところ、直後に契約を解除されていたことが分かりました。そのオリンパスの株式。きょう投資家に注意を呼びかける監理銘柄に指定され、場合によっては上場廃止になる可能性も出てきました。

(「ニュース7」NHK、2011年11月10日放送)

- (7) そのカーク通商代表。

(「ニュース7」NHK、2011年11月12日放送)

このように、体言止め・助詞の省略はニュース番組において特徴的な言語現象である。これは次の節以降で述べる言語現象ともしばしば共起するので、他の言語現象を示すために挙げる例にも、体言止め・助詞の省略がしばしば含まれている。

2.2 動詞的要素の省略

日本語の重要な言語的特徴の一つとして従来指摘されてきたものとして、動詞的概念を形態的に明示するという点が挙げられる。影山 (1999) によれば、英語は動詞的な概念を明確な形で表現しなくても済ませられる言語であるのに対し、日本語は動詞的概念をそのまま形態的に明示する必要がある言語である。この点を示すものとして、影山は名詞から動詞への転換を例として挙げる。転換とは、元の形態はそのまま品詞だけを変える操作である。英語では、形態を変えずに名詞を動詞としても用いるということが頻繁に生じる。影山が英語における名詞から動詞への転換の例として扱っている単語の一つに、以下に挙げる *butter* がある。

(8) *butter* 名詞：バター

動詞：バターをぬる

(9) She buttered four thick slices of bread.

(Oxford Advanced Learner's Dictionary 2000)

これに対し、日本語では、形態を変えずに名詞を動詞としても用いるということはむずかしい。名詞「バター」に屈折語尾をつけて動詞として使おうとすると、不適格な文になる。

(10) a. *彼女は4枚のパンにバターった。

b. 彼女は4枚のパンにバターをぬった。

(轟 2007:128)

(10)が示すように、日本語ではぬるという動詞的概念を「ぬる」という動詞として形態的に明示しなければならぬ。このようなことから、影山は次のように結論付けている。

(11) (日本語は) 動詞概念をそのまま形態的に明示する必要がある。一方、英語は動詞的な概念を明確な形で表現しなくても済ませられる言語である。

(影山 1999:93)

しかし、日本語のこの言語的特徴に反するように見える例が、ニュース番組で頻出している。従来日本語では明示される必要があると言われてきた動詞的概念が、形態的に示されずに省略されている表現が、ニュース番組において急激に増加している。

(12) 逆転有罪判決です。(cf. 逆転有罪判決が出ました)

(「ニュース7」NHK、2006年3月6日放送)

(13) 日本航空の機内食でアメリカ産牛肉です。(cf. 日本航空の機内食でアメリカ産牛肉が出されました)

(「ニュース7」NHK、2006年3月10日放送)

(14) 選挙の取り組みが本格化です。(cf. 選挙の取り組みが本格化しています)

(「ニュース7」NHK、2007年7月5日放送)

(15) このほかにも課題は山積です。(cf. このほかにも課題は山積しています)

(「ニュース7」NHK、2009年9月24日放送)

(12)から(15)の例では、それぞれ括弧中の下線部にあたる概念が形態的に明示されていない。このように、従来日本語では明示される必要があると言われてきた動詞概念が、形態的に示されずに省略されている表

現が、ニュース番組において頻出している。

次の例が示すように、動詞的要素を省略した表現が 2.1 で述べた体言止め・助詞の省略と同時に出現する場合も多い。

- (16) 交渉参加に向けて関係国との協議に入る。野田政権、方針決定です。
(「ニュース7」NHK、2011年10月31日放送)
- (17) 敬老の日、ちょっと様変わりです。
(「ニュース7」NHK、2010年9月20日放送)
- (18) 東京タワーを超える高さの展望台。初めて公開です。
(「ニュース7」NHK、2011年3月6日放送)
- (19) 沖縄防衛局長、更迭の方針です。
(「ニュース7」NHK、2011年11月29日放送)

(19)の例は、これだけで見ると、「沖縄防衛局長が誰かを更迭する方針」なのか「沖縄防衛局長が更迭されるという方針」なのか分かりにくい。(実際は後者の意味として使われていた。)

このように、動詞的概念が形態的に示されずに省略されている表現が、ニュース番組で目立つようになっている。影山の述べるように、日本語が動詞的概念を形態的に明示する必要があるのに対し、英語は動詞的な概念を明確な形で表現しなくても済ませられる言語であるとするなら、上のような日本語の変化は、一見英語化していることの現れだというように受け取れる。しかし、実際は、問題はそれほど単純ではない。なぜなら、次節で取り上げるように、ニュース番組の言語の重要な特徴の第三点として、文の重要な要素を省略して後述するという現象が見られるからである。

2.3 要点の後置・省略

英語は、文の単位でもテキストの単位でも、重要な点が先行することが多い。これに対し日本語は、SOV 言語であって動詞で文が終わることもあり、文単位では重要な点が後ろに行ってしまうことも多い。文の場合もテキストの場合も、要点が後ろに行ってしまうと理解がしにくく、誤解を招く可能性もあるので、従来、新聞記事など報道に関わる言語においては、要点を最初にもってこなければならぬといわれてきた。(根岸(1999))

しかし現在、ニュース番組では、最も重要な要素を後ろに回す(20)のような表現が多用されている。(20)は4つの文からなっているが、最も重要な要素である文が後置されている。

- (20) 県特産物を守ろうとみんなが力を合わせます。農協や農家が結成したパトロール隊。守ろうとしているのは秋の味覚 20世紀梨です。鳥取県佐治町では、毎年収穫直前の梨が盗まれていることから、今年パトロール隊を結成しました。
(「ニュース7」NHK、2007年8月23日放送)

(20)の例では、最も重要な要素である「鳥取県佐治町では、毎年収穫直前の梨が盗まれていることから、今年パトロール隊を結成しました。」が最後に置かれている。次の(21)(22)は最近の例で、より重要な要素である文がやはり第二文以降に置かれているものである。

- (21) 願いをかなえる研修会です。京都北野天満宮。お正月に向けて、およそ 70 人の巫女さんが参拝者を迎えるための説明を受けました。合格を願うお守りやお札の種類、作法もしっかり学びました。
(「ニュース7」NHK、2011年11月12日放送)

- (22) 洪水の被害はいつまで続くのでしょうか。タイは、満潮のときの潮位が特に高くなる大潮を再び迎えました。被害が長期化する中、タイのスラポン外相と会談した玄葉外務大臣は、日系企業の操業を早期に再開させるため、タイ政府の協力を要請しました。

(「ニュース7」NHK、2011年11月12日放送)

時には、要点のみならず、統語的に必須の要素さえ、後ろに回されている場合もある。

- (23) 予告なしに現れました。

(「ニュース7」NHK、2007年10月2日放送)

- (24) 刑事告発する方針です。

(「おはよう日本」NHK、2011年11月21日放送)

(23)の文は、主語がなく、「〇〇が(誰が)」は後で述べられる。(24)はあるニュース項目の冒頭で述べられた文であるが、「刑事告発する」に必要な要素である「〇〇が(誰が)」「〇〇で(どういう理由で)」「〇〇を(誰を)」がなく、すべて後で述べられる。

次の(25)から(28)のように、統語的に必須の要素が後ろにさえ現れず、完全に省略されてしまう場合もある。

- (25) クレーン車が倒れこんだのは、一般の人も車を止める駐車場です。地面には先端がめり込んだ跡が。

(「ニュースウォッチ9」NHK、2011年7月7日放送)

- (26) 閣僚会議の後、出席した両大臣は。

(「ニュース7」NHK、2011年11月12日放送)

- (27) 終点の石巻駅の先、女川駅までは今も運転できないままです。それでも、SLの姿に住民は。

(「ニュース7」NHK、2011年11月12日放送)

- (28) 人気沸騰なでしこリーグは、きょうの試合にも5千人以上のファンが。

(「ニュース7」NHK、2011年11月12日放送)

次の例では、最も重要な要素を後ろに回したり省略したりしていると同時に、体言止め・助詞の省略や動詞的要素の省略も生じている。

- (29) (=1)民主党の鳩山代表、第93代内閣総理大臣に。

- (30) 札幌ドームに詰め掛けた人、人、人。お目当ては日本ハムのルーキー斎藤佑樹投手。強力打線の巨人を相手に3回を無失点。オープン戦初勝利です。

(「ニュース7」NHK、2011年3月6日放送)

- (31) 東京タワーを超える高さの展望台。初めて公開です。建設が進む東京スカイツリー。地上350メートルからの眺めは。

(「ニュース7」NHK、2011年3月6日放送)

- (32) 126,800円。東京池袋のデパートが売り出す福袋の中身は、(かなり長い間(ま))建設中の東京スカイツリー、来年5月の開業に合わせたサービスをそろえました。手に入りにくいとされる開業当日の入場券や、展望台での食事券、さらにはスカイツリーの夜景も楽しめるホテルの宿泊券がセットになっています。

(「ニュース7」NHK、2011年11月29日放送)

- (33)も、要点の後置・省略と体言止め・助詞の省略が同時に出現している例である。ここでは、アナウンサーの発話に加え他の音声や映像がどのように使われているかを簡単に示してある。

- (33) 新たな政治の歴史が始まるのでしょうか。今日第 93 代内閣総理大臣となった鳩山由紀夫氏。(鳩山氏の映像と発言の音声)そして今日もこの言葉が。(鳩山氏の映像と「友愛」の文字と発言の音声。)
- (「ニュースウォッチ 9」NHK、2009 年 9 月 16 日放送)

このように、近年、ニュース番組では、最も重要な要素を後ろに回したり、統語的に必須の要素を後ろに回したり完全に省略したりする表現が、非常に目立つようになっている。

2.4 疑問形の文

疑問形をとっている文も、近年ニュース番組で非常に目立つようになっている現象である。ここまでに挙げた例の中にも疑問形の文が含まれたものがすでにあった。(22)(33) さらに次のような例がある。

- (34) 背景には何があったのでしょうか。
- (「ニュース 7」NHK、2011 年 11 月 10 日放送)
- (35) ふるさとを離れて避難生活をおくる有権者は、今回の選挙をどのような思いで迎えているのでしょうか。
- (「ニュース 7」NHK、2011 年 11 月 10 日放送)
- (36) この間およそ 1 時間。現場からは何が見えたのでしょうか。
- (「ニュース 7」NHK、2011 年 11 月 12 日放送)

多くの場合、これらの文が表す疑問に対し、その同じニュースの中で答えを与える形で話が展開されているようである。

3. ニュース番組と娯楽番組の比較

2 節で述べたように、現在のニュース番組には、特有の言語現象が見られる。轟 (2007) はこれらを、ニュース番組の娯楽化と関連付けている。加来 (2007) が述べるように、ニュース番組はいわゆる「ワイドショー」のような娯乐的な要素を盛り込むようになってきている。このことが、言語面でも影響を及ぼし、上に述べるような現象が生じていると考えられる。

このことを証明するために、ニュース番組といわゆるバラエティ番組との比較を行ってみよう。比較を行う部分としては、番組の冒頭部分を選んだ。現在多くのニュース番組では、番組の冒頭部分に項目紹介がある。つまり、番組の冒頭で主なニュース項目の紹介を行っている。轟 (2010) が指摘するように、この部分には近年のニュース番組の特徴が特に顕著に現れている。以下に挙げるのは、ニュース番組の冒頭部分で紹介された項目の一つを取り出したものである。

- (37) 突然の発表でした。尖閣諸島で中国の漁船と海上保安庁の巡視船が衝突した事件。日中関係、今後どう展開するのでしょうか。
- (「ニュース 7」NHK、2010 年 9 月 24 日放送)

この短い部分に、「体言止め・助詞の省略」「要点の後置・省略」「疑問形式の文」が集中的に現れているのが分かる。

(38)(39)はそれぞれ、ニュース番組の冒頭部分でのアナウンサーのこぼれ全体を書き出したものである。

言語だけでは項目の切り替わった部分がわかりにくいので、項目の区切り部分に／を入れてある。

- (38) 国内線の格安定期便。就航したのは、国際線が看板の成田空港。そのねらいは。／江戸幕府と同じ年に誕生した東京の日本橋。今の橋に架け替えられて今年で 100 年。変化する町や人をどのように見つめてきたのでしょうか。

(「ニュース 7」NHK、2011 年 10 月 30 日放送)

- (39) 4200 億円の赤字。1 万 1000 人の削減。円高などの影響が深刻に。政府日銀は。／みんなが 70 億人目です。世界の人口、今世紀中に 100 億人を超えることに。

(「ニュース 7」NHK、2011 年 10 月 31 日放送)

(38)(39)においても、「体言止め・助詞の省略」「要点の後置・省略」「疑問形式の文」が集中した形で現れている。これを、いわゆるバラエティ番組の冒頭部分と比較してみよう。(40)は、一つのバラエティ番組の冒頭部分で、内容を項目ごとに紹介している部分のナレーション全体である。やはり、項目の区切り部分に／を入れてある。

- (40) 今夜はAKB選抜メンバーが大集合。なんとSMAP総選挙を開催。AKBがSMAPを格付け？爆笑の投票結果が。／そして、あなたの隣にもいるかもしれない、本当にいたダメ男を再現ドラマ化。SMAPもダメ男！？思わぬ本音が。このあと。

(「SMAP×SMAP」2011 年 8 月 29 日放送)

このバラエティ番組の冒頭部分のナレーションでは、「体言止め・助詞の省略」「要点の後置・省略」「疑問形式の文」が短い時間に集中した形で現れており、(38)(39)はこれと非常に類似していることがわかる。

また、言語以外の面でも、ニュース番組の冒頭部分はバラエティ番組の冒頭部分とよく似た特徴が多く見られる。論文の紙面では表現しにくいのが、まず画面では、写真や映像、画面上の文字などに加工が施され、アニメーションなど特殊な効果を出すことを狙った手法が取り入れられている。ところどころで、人物（ニュースではインタビューを受けた人、バラエティでは出演者）の声が断片的に入るところも類似している。また、バックにはずっと音楽が演奏されている。⁴⁾

このように、ニュース番組の冒頭の紹介部分がバラエティ番組の冒頭部分と極めてよく似た特徴をもつということは、ニュース番組の言語現象が娯楽的要素によるものであるということを示す証拠となる。

番組の冒頭で項目紹介を行っている部分は、本論文で指摘した言語現象が集中的に現れるが、それ以外に、ニュース番組の中で特にこのような言語現象が集中的に現れる部分、つまり娯楽性の高いと言える部分があるだろうか。そのような部分として挙げることができるのは、ニュース番組の中でスポーツを扱ったニュースの部分である。⁵⁾

ここでは本論文で指摘した言語現象の中で体言止め・助詞の省略に絞ってスポーツニュースを考察しよう。轟 (2007) が指摘するように、スポーツニュースではかなり前 (1970 年代) から体言止め・助詞の省略が確認できる。

この体言止め・助詞の省略の出現に関し、放送年の異なる同じ番組を比較してみよう。番組は「おはよう日本」(NHK) で、2005 年 2 月 18 日と 2011 年 2 月 18 日に放送されたものである⁶⁾。次の表は、それぞれで体言止め・助詞の省略が出現した数を示している。(為替と株の値動きを伝える部分に生じたものは含まれていない。⁷⁾)

表 体言止め・助詞の省略の出現数

	2005年（放送時間 30分間）	2011年（放送時間 45分間）
スポーツ	9 (放送時間約4分間)	14 (放送時間約6分間)
その他	6	35
合計	15	49

注※「おはよう日本」(NHK)

ここで、注目できる点が二つある。まず、2005年2月(2004年度)⁸⁾と2011年2月(2010年度)を比較すると、2011年2月のほうが体言止め・助詞の省略が多いことから、この傾向が年を追って強まっていることがある程度見て取れる。この点に関しては、さらに多くの番組の比較が必要であるが、ここで、より注目したい点は、スポーツ関連のニュースに生じる体言止め・助詞の省略の数である。どちらの年にも、放送時間に比してスポーツ関連のニュースに体言止め・助詞の省略が多いことから、スポーツ関連のニュースにこの傾向が強いことがわかる。このことは、スポーツ関連のニュースがニュース番組の中で特に娯楽性の高い部分であることを示していると考えられる。⁹⁾

次の節では、スポーツに関連したニュースで近年生じている言語現象を取り上げて分析する。

4. スポーツニュースの言語

スポーツニュースに生じている言語現象として、この節では、格助詞「と」を含む例を考察する。現在スポーツニュースでは、次の(41)のような、格助詞「と」の特殊な使い方が見られる。

- (41) 試合前、真の男はいないものかと話した原監督。その嘆きに選手が答えます。4回、1塁2塁で大村。移籍後2試合目の先発です。結果を出さないといけない立場とタイムリー。巨人、この三連戦で始めて先制します。

(「ニュースウォッチ9」NHK、2011年7月7日放送)

(41)の「結果を出さないといけない立場とタイムリー。」という部分で、格助詞「と」が特殊な使い方をされている。

格助詞「と」には、引用を表す用法があり、文あるいは文相当の語句や擬声語を承け、続く動詞(「思う」「言う」「聞く」などの場合が多い)の内容を表す(小学館『国語大辞典』第二版、「と」の項)。例えば、次のような場合である。

- (42) a. 大事な試合にもかかわらず皆調子が悪く、太郎は、自分ががんばらなければと思った。
b. 試合前、真の男はいないものかとと話した原監督。

(42b)は(41)の第一文であるが、この部分の「と」の用法は、「話した」という動詞を伴っていることからわかるように、上に述べた引用を表す用法である。それで、(41)の「結果を出さないといけない立場とタイムリー。」という部分は、一見、次の(43)の括弧中の表現を省略したものに見える。

- (43) (大村は) 結果を出さないといけない立場と (思って) タイムリー (を打ちました)。

このように考えても、他の人にはわからない人物の内面を描いているようで違和感に残るものの、(43)は文法的には成立している文である。

しかし、「と」を使用した例には、上のような説明では扱えないものがある。次の(44)を見てみよう。

(44) a. …その裏2アウト満塁で天谷。大竹を楽にさせるために打ちたかったとタイムリーヒット。この回さらに2点を加えた広島。連敗は3でストップです。(広島対中日)

b. …楽天が3対2と勝ち越します。2塁3塁となってリンデン。自分の仕事ができたとタイムリーヒット。…(日本ハム対楽天)

(「ニュースウォッチ9」NHK、2009年9月16日放送)

これらの例は、次の(45a,b)の括弧中の表現が省略されたものとはみなせない。

(45) a. * (天谷は) 大竹を楽にさせるために打ちたかったと (思って) タイムリーヒット (を打ちました)。

b. * (リンデンは) 自分の仕事ができたとと (思って) タイムリーヒット (を打ちました)。

(45a,b)を、次の文と比べてみよう。

(46) a. 花子は、受賞パーティーに着て行きたいと思ってその青い服を買った。そしてそれを着て受賞パーティーに行った。

b. *花子は、受賞パーティーに着て行きたかったと思って、その青い服を買った。そしてそれを着て受賞パーティーに行った。

(46)で、花子が受賞パーティーに行くのは、その服を買った後である。よって、(46b)は、補文の時制が不適格である。同様に(45a,b)も不適格となる。つまり、(44a,b)は(45a,b)の括弧中の表現が省略されたものとみなすことはできない。

では(44a,b)のような表現をどのように考えることができるのであろうか。次の例は、スポーツニュースにおける「と」の使用例であるが、これは先に述べた一般的な「と」の用法(引用を表す用法)に従っているものであると言える。

(47) (西岡選手は) アメリカにわたっておよそ5か月。去年までのスイングがはじめてできたと、手ごたえを口にしました。

(西岡選手)「結果が出てよかったなと思います。チームが勝てるように貢献していきたいなと思います。」

(「ニュースウォッチ9」NHK、2011年7月7日放送)

(47)では、「と」の使用に続き、西岡選手の試合後のインタビューの映像と発話の音声の流れされている。それで、「と」によって表されている「去年までのスイングがはじめてできた」は、西岡選手のインタビューでの発言内容の一部であると推測できる。

これを踏まえて、(44a)で起こっている現象を考えてみよう。(44a)でも、「と」は(47)の例にある「と」の意味と基本的に同じ意味を持ち、それをもとに(44a)の表現が作られたと仮定しよう。そうすると、(44a)の「大竹(投手)を楽にさせるために打ちたかった」は、試合後のインタビューでの天谷選手の発言内容の一部であることになる。天谷選手は、試合後のインタビューで、その試合のある場面を振り返って、あの時は投手の大竹選手を楽にさせるために打ちたかったという内容のことを述べたと考えられる。言うまでもなく、そのようなインタビューは、時間的には試合より後である。しかし、天谷選手が「大竹(投手)

を楽にさせるために打ちたい」と思うのは、試合中、それもタイムリーヒットを打つ前である。ここで関係している事象は3つであり、それらを時間的順序に従って表すと、次のようになる。

- (48) ①天谷選手は大竹投手を楽にさせるために打ちたかった。→②天谷選手はタイムリーヒットを打った。
→③天谷選手は大竹投手を楽にさせるために打ちたかったと語った。

これらを凝集したものが(44a)の「大竹を楽にさせるために打ちたかったとタイムリーヒット。」という表現となっていると考えられる。

スポーツニュースでこのような表現を使う目的は、いくつか考えられる。一つは、表現を凝集させて短い時間で多くのことを述べることによって、スピード感のようなものを出すことである。また、このような「と」の用法は通常の用法とは異なるため、あえて通常とは違う使い方をすることによって生じる違和感を利用しているとも考えられる。文学的な作品では、統語的な規則をあえて破ることによって生じる違和感を効果として利用する場合があるが、スポーツニュースにおける「と」の用法もそれに類似したものだとすると、これもニュースを娯楽的に脚色するという傾向と関連があることになり、スポーツニュースの娯楽性が高いことを言語的に示すものと言える。

このような「と」の使用は、野球に関するニュースで目立つが、野球に限らずそれ以外のスポーツニュースでも現れる。(49)はフィギュアスケートに関するニュースである。

- (49) 小塚崇彦は最初に4回転ジャンプを予定していました。しかし、練習で飛べていなかったと3回転に変更。

(「ニュース7」NHK、2011年11月12日放送)

このような「と」の用法は今のところスポーツニュースに限られているようである。しかし、これが他に広がる可能性もある。先に述べたように、体言止め・助詞の省略の場合、スポーツニュースではかなり前(遅くとも1970年代)から使われており、以前はスポーツ関係に限られていたこの傾向が、ニュース番組に娯楽要素が盛り込まれるようになってくるとともに、年々あらゆるジャンルのニュースで増加していったと思われる。このように、体言止め・助詞の省略が広がったことを考えると、この節で考察した「と」の用法も、スポーツニュース以外のニュースに広がる可能性は否定できない。

5. 結論

本論文では、いわゆるニュース番組で顕著な言語現象について考察した。

一つのニュース番組の中でも、番組の部分によって、そこで使われる言語に特徴が見られる。特に、番組冒頭のニュース項目紹介の部分と、スポーツニュースは、特徴的な言語現象を示す。また、この現象をニュース番組の娯楽化と関連付けることができる。

言語は歴史を通じて変化してきたものだが、近年見られる言語変化、特にニュース番組における言語変化は、質的にも量的にもこれまでになかったような言語変化である。中には、日本語という言語の根本的な特徴に関わるものも含まれている。メディアの大きな影響力を考えると、これが一般の言語使用にどのような影響を及ぼしていくのか、注視する必要があると言える。

註

¹⁾ 本論文で扱うニュース番組は、NHKで放送されたものである。NHKの分類では、放送するプログラム

全体を、「ニュース」とそれ以外のプログラムに二分し、「ニュース」以外のプログラムを「番組」として用いるのである。本論文では、「番組」という語を「テレビで放送されるプログラム」という一般的な意味で用いることとし、ニュースを扱っているプログラムを「ニュース番組」と呼ぶこととする。

2) 轟 (2007) で体言止めあるいは助詞の省略として扱ったのは、発話において間がおかれる直前が名詞で終わっているものである。発話に出てくるある表現が体言止めかあるいは助詞の省略なのかを区別するためには、それぞれを厳密に定義する必要があるが、轟 (2007) ではこれら二つを類似した現象として扱い、体言止めと助詞の省略を明確には区別していない。本論文でも区別しないことにする。

3) 本論文で挙げるニュース番組からの例文は、筆者が録画した番組から取り出している。一部は、録画ではなく、番組放送時に見た際に書いて記録したものである。これらは、音声情報を文字情報として記録したものであり、画面に文字情報が出た場合はそれを手がかりとして表記した。「体言止め・助詞の省略」が出現した部分では、名詞の直後に間(ま)がある場合に、助詞が省略されているとみなせるところは読点、それ以外は句点を入れてあるが、註2で述べたように、この区別はここでは厳密なものではない。また、それ以外の部分では、間のすべてに読点が入れてあるわけではない。前後の文脈を伴う例文では、議論の対象としている言語現象の部分に下線を引いてある場合がある。アナウンサー等の言語以外の情報(映像や映像上の文字情報、インタビューを受けた人物の言語など)にはここでの議論に必要な場合のみ言及している。

4) 小泉 (1998) は、「(世界各地のニュースと比べると)日本のニュースは音楽や音楽効果の使用頻度が飛び抜けて高いように思える」と述べている。

5) 以降で、ニュース番組のスポーツを扱ったニュースの部分、スポーツニュースと表記する場合がある。

6) スポーツなどは、月によって扱われる内容が異なってくるので、内容が近くなるようにするため、2005年と2011年で同じ日付(2月18日)に放送されたものを選んだ。2005年と2011年で放送時間が異なるのは、この間に番組改編があったためである。2005年には「おはよう日本」は7時から7時30分まで全国放送、その後15分間のローカル放送をはさんで、7時45分から8時15分まで全国放送、という構成であったが、番組改編により、2010年度から7時から7時45分まで全国放送、その後ローカル放送でそのあとの全国放送部分はなくなっている。

7) 為替と株の値動きを伝える部分には、次のような形で体言止め・助詞の省略がしばしば現れる。

(i) 外国為替市場の円相場、現在1ドル105円56銭から61銭で取引されています。ニューヨーク株式会社市場平均株価の終値、前日より80ドル62セント値下がりして、10,754ドル26セントでした。

(「おはよう日本」NHK、2005年2月18日放送)

轟 (2008) が示すように、為替と株の値動きを伝える部分におけるこのような表現は、テレビに特有のものではなく、ラジオでも同じ表現が用いられるので、テレビニュースの言語の特徴を論じる本論文での議論からは外した。

8) 番組の改編は年度単位で行われることが多いので、ここでは括弧中に当該年度を示した。

9) 2005年の「おはよう日本」で、スポーツ関連以外のニュースで出現している体言止め・助詞の省略6例のうち、3例は7時台オープニングのニュース項目紹介の部分に現れている。2011年の「おはよう日本」には7時台オープニングのニュース項目紹介がないので、この部分の比較はできないが、2011年に比べて体言止め・助詞の省略が少ない2005年でも、オープニングのニュース項目紹介の部分には体言止め・助詞の省略が生じやすかったことが分かる。

参考文献

影山太郎 (1999) 「形態論とレキシコン」西光義弘編『日英語対照による英語学概論』47-96、くろしお出版。

加来由子 (2007) 「午後のワイドショー消え行く東京」朝日新聞2007年9月19日23面。

小泉哲郎 (1998) 『テレビジャーナリズムの作法—米英のニュース基準を読む—』花伝社。

中 正樹 (2008) 「内容分析のすすめ—実証することの大切さ」小玉美意子編『テレビニュースの解剖学—映像時代のメディア・リテラシー』新曜社、26-37。

根岸裕一 (1999) 『新聞記事翻訳の現場から 和英翻訳ハンドブック』大修館書店。

- 轟 里香 (2007) 「映像メディアで使用される言語の変化—英語学習者に対する影響—」『北陸大学紀要』第 31 号、125-135。
- 轟 里香 (2008) 「ニュース番組で用いられる言語の変化について」『北陸大学紀要』第 32 号、121-133。
- 轟 里香 (2009) 「日英語における強調表現」『北陸大学紀要』第 33 号、101-108。
- 轟 里香 (2010) 「ニュース番組の相違が言語に及ぼす影響」『北陸大学紀要』、第 34 号、99-109。